

2027年度大学院 修士課程入学試験について

本学で実施される2027年度大学院修士課程入学試験において、変更等重要な点は以下の通りです。詳細については、2026年7月公表予定の2027年度学生募集要項で改めてお知らせします。またあわせて本学ウェブサイト内の[関連ページ](#)もご参照ください。

記

1. 修士課程 多文化音楽研究領域 試験科目の変更について

修士課程の音楽文化研究専攻 多文化音楽研究領域において、試験科目の一部を下記のとおり変更します。

<共通科目試験>

- ・共通科目試験より、小論文の選択が無くなります。(専攻科目試験で課す)

	変更前 (2026年度)	変更後 (2027年度以降)
共通科目	外国語・音楽史・小論文より ⇒一般選抜は外国語・音楽史の2科目必須 社会人特別選抜はいずれか1科目選択 (筆記試験型は小論文の選択不可) 外国人留学生特別選抜はいずれか1科目選択	外国語・音楽史より ⇒一般選抜は外国語・音楽史の2科目必須 社会人特別選抜はいずれか1科目選択 外国人留学生特別選抜はいずれか1科目選択 ※小論文は廃止

<専攻科目試験 ※筆記試験型か実技試験型のいずれかを選択>

- ・筆記試験型に「筆記試験」を新たに課し、また小論文の試験時間を90分から60分に変更します。
- ・実技試験型に「小論文」を新たに課します。

以下選択	変更前 (2026年度)	変更後 (2027年度以降)
筆記試験型	・小論文 [90分] ・口述試問	・小論文 [60分] (多文化音楽研究に関する) ・筆記試験 [60分] (当日指定する複数課題に関する短文) ・口述試問
実技試験型	・実技試験 ・口述試問	・小論文 [60分] (多文化音楽研究に関する) ・実技試験 ・口述試問

<参考：変更となる試験科目の出題意図・例題について ※2月28日追加>

専攻科目試験 『小論文(60分)』 ※筆記試験型・実技試験型で共通して実施	
出題意図	音楽の伝統とその将来の姿について、選択肢から解答者が選択した観点で考えさせる。具体的な音楽例を用いて、説明する能力を評価する。 また選択肢の選択手順など、和文問題文の読解能力を問う。説明文としての適切な文体の選択、論旨を明確に表現する和文構造、用語の選択などの日本語執筆能力についても評価する。
例題	過去の共通科目試験で実施した「小論文」を参照ください。 (掲載) https://www.tokyo-ondai.ac.jp/information/48340.php ※共通科目_小論文「多文化音楽研究領域 小論文」を参照
専攻科目試験 『筆記試験』 ※筆記試験型で実施	
出題意図	多文化音楽研究領域における研究（民族音楽学、世界音楽研究）の実施を基礎付ける基礎的用語や専門用語などについて、日本語で説明できる能力を測定する。
例題	次の用語 10 点から、5 点を選択しなさい。選択した各用語について、それぞれ 200 字以内で簡潔に説明しなさい。[60 分] ※参考書などの持ち込みなし 例) 用語：①文化相対主義 ②アイヌ ③リュート属 以上のような用語を 10 点提示する。

以上